

令和5年度 学校評価(学校自己評価・学校関係者評価)

養父市立伊佐小学校
令和6年3月6日

1 学校教育目標

ふるさとを愛し 自らを高め 未来への道を切り拓く 八鹿青溪っ子の育成

2 本年度の重点目標

■ふるさとを愛し、集団の中で自己の有り様を考え、実践できる児童を育成する ■知・徳・体のバランスを保持し、「確かな学力」を備えた児童を育成する ■学校を中心とした関係機関との連携を密にする

3 学校自己評価結果(A優れている B良い C良くない D要改善)

	評価項目・取組内容	達成状況	学校の取組状況・改善の方策
めざす教育	1 子どもたちは、物事をよく考えて判断し、進んで学習に取り組もうとしている。	B	【学校】 ・掲示物の定期的な貼り替え、ICTの活用、教材・教具の工夫等、職員が工夫して環境整備に取り組んでいる。 ・予算に限られている中、中教委も含め、環境整備には非常に尽力をしている。 ・地域の方にたくさんお世話になっているお蔭で、安全等について確保されている部分が多々ある。 ・コロナ禍が明けた後、地域との連携も少しずつ回復することができている。 ・児童も少人数であるが、職員も少人数である。その中でも、しっかりと一人一人を見ていると感じる。 ・上を見れば限りが無いが、職員は少ない人数を補う努力をして十分に子どもたちの配慮をしている。 ・児童に対して話を聞く意識を高く持ち、できるだけ反映させたいという努力や検討はしている。 ・子どもたちや保護者、地域の方の声を、あくまでも強りよがりの内容にならないように、全体のことを踏まえながら反映していかなければならない。
	2 子どもたちは、思いやりの心を持ち、仲間と協力して成長しようとしている。	A	【児童】 ・教員の授業や生活指導等の工夫により、日々素直に学校生活に取り組み、それぞれの発達段階に応じた考える力や判断する力が深まっている。 ・子どもたちに任せ、自分たちで考える機会を増やす等の工夫により、より主体的・探究的に学習や生活を進められる授業展開、生活指導を指導者側が意識することが大事である。 ・友だちを大切にするという言動が、年度の後半になるにつれて高まってきていると感じる。今後は学校での児童への指導だけでなく、保護者が周りの家庭の児童に対する理解・思いやりの気持ちを持つことが必要である。 ・例年の課題だが、ねばり強さを必要とする機会が少ない。粘り強くやり抜く機会と雰囲気を与えていかなければならない。 ・個による差は大きいと思う。する子はするし、しない子は全くしない。決められた場所ではしか挨拶ができていないという感じも受ける。 ・「誰にでも」するべきなのか、しないべきなのか。挨拶をする機会や挨拶をする間柄の人の判断は子どもには難しい。教員が児童に意識させられるよう常に指導し続けることが大切である。 ・家庭や地域の挨拶力の向上も必要である。
	3 子どもたちは、何事もねばり強くやり抜こうとしている。	A	【児童】 ・教員の授業や生活指導等の工夫により、日々素直に学校生活に取り組み、それぞれの発達段階に応じた考える力や判断する力が深まっている。 ・子どもたちに任せ、自分たちで考える機会を増やす等の工夫により、より主体的・探究的に学習や生活を進められる授業展開、生活指導を指導者側が意識することが大事である。 ・友だちを大切にするという言動が、年度の後半になるにつれて高まってきていると感じる。今後は学校での児童への指導だけでなく、保護者が周りの家庭の児童に対する理解・思いやりの気持ちを持つことが必要である。 ・例年の課題だが、ねばり強さを必要とする機会が少ない。粘り強くやり抜く機会と雰囲気を与えていかなければならない。 ・個による差は大きいと思う。する子はするし、しない子は全くしない。決められた場所ではしか挨拶ができていないという感じも受ける。 ・「誰にでも」するべきなのか、しないべきなのか。挨拶をする機会や挨拶をする間柄の人の判断は子どもには難しい。教員が児童に意識させられるよう常に指導し続けることが大切である。 ・家庭や地域の挨拶力の向上も必要である。
	4 子どもたちは、家庭や地域で進んで挨拶をしようとしている。	B	【児童】 ・教員の授業や生活指導等の工夫により、日々素直に学校生活に取り組み、それぞれの発達段階に応じた考える力や判断する力が深まっている。 ・子どもたちに任せ、自分たちで考える機会を増やす等の工夫により、より主体的・探究的に学習や生活を進められる授業展開、生活指導を指導者側が意識することが大事である。 ・友だちを大切にするという言動が、年度の後半になるにつれて高まってきていると感じる。今後は学校での児童への指導だけでなく、保護者が周りの家庭の児童に対する理解・思いやりの気持ちを持つことが必要である。 ・例年の課題だが、ねばり強さを必要とする機会が少ない。粘り強くやり抜く機会と雰囲気を与えていかなければならない。 ・個による差は大きいと思う。する子はするし、しない子は全くしない。決められた場所ではしか挨拶ができていないという感じも受ける。 ・「誰にでも」するべきなのか、しないべきなのか。挨拶をする機会や挨拶をする間柄の人の判断は子どもには難しい。教員が児童に意識させられるよう常に指導し続けることが大切である。 ・家庭や地域の挨拶力の向上も必要である。
	5 学校は、学習・生活環境の整備に努め、子どもたちが意欲的に生活を送ることができる学校づくりに努めている。	A	【学校】 ・掲示物の定期的な貼り替え、ICTの活用、教材・教具の工夫等、職員が工夫して環境整備に取り組んでいる。 ・予算に限られている中、中教委も含め、環境整備には非常に尽力をしている。 ・地域の方にたくさんお世話になっているお蔭で、安全等について確保されている部分が多々ある。 ・コロナ禍が明けた後、地域との連携も少しずつ回復することができている。 ・児童も少人数であるが、職員も少人数である。その中でも、しっかりと一人一人を見ていると感じる。 ・上を見れば限りが無いが、職員は少ない人数を補う努力をして十分に子どもたちの配慮をしている。 ・児童に対して話を聞く意識を高く持ち、できるだけ反映させたいという努力や検討はしている。 ・子どもたちや保護者、地域の方の声を、あくまでも強りよがりの内容にならないように、全体のことを踏まえながら反映していかなければならない。
	6 学校は、地域とともに歩む、安全で安心な学校づくり(信頼される学校づくり)に努めている。	A	【学校】 ・掲示物の定期的な貼り替え、ICTの活用、教材・教具の工夫等、職員が工夫して環境整備に取り組んでいる。 ・予算に限られている中、中教委も含め、環境整備には非常に尽力をしている。 ・地域の方にたくさんお世話になっているお蔭で、安全等について確保されている部分が多々ある。 ・コロナ禍が明けた後、地域との連携も少しずつ回復することができている。 ・児童も少人数であるが、職員も少人数である。その中でも、しっかりと一人一人を見ていると感じる。 ・上を見れば限りが無いが、職員は少ない人数を補う努力をして十分に子どもたちの配慮をしている。 ・児童に対して話を聞く意識を高く持ち、できるだけ反映させたいという努力や検討はしている。 ・子どもたちや保護者、地域の方の声を、あくまでも強りよがりの内容にならないように、全体のことを踏まえながら反映していかなければならない。
	7 学校は、子どもたち一人一人を大切にしながら日々の教育活動に取り組んでいる。	A	【学校】 ・掲示物の定期的な貼り替え、ICTの活用、教材・教具の工夫等、職員が工夫して環境整備に取り組んでいる。 ・予算に限られている中、中教委も含め、環境整備には非常に尽力をしている。 ・地域の方にたくさんお世話になっているお蔭で、安全等について確保されている部分が多々ある。 ・コロナ禍が明けた後、地域との連携も少しずつ回復することができている。 ・児童も少人数であるが、職員も少人数である。その中でも、しっかりと一人一人を見ていると感じる。 ・上を見れば限りが無いが、職員は少ない人数を補う努力をして十分に子どもたちの配慮をしている。 ・児童に対して話を聞く意識を高く持ち、できるだけ反映させたいという努力や検討はしている。 ・子どもたちや保護者、地域の方の声を、あくまでも強りよがりの内容にならないように、全体のことを踏まえながら反映していかなければならない。
	8 学校は、子どもたちや保護者の方、地域の方の声を聞き、学校教育に反映しようとしている。	A	【学校】 ・掲示物の定期的な貼り替え、ICTの活用、教材・教具の工夫等、職員が工夫して環境整備に取り組んでいる。 ・予算に限られている中、中教委も含め、環境整備には非常に尽力をしている。 ・地域の方にたくさんお世話になっているお蔭で、安全等について確保されている部分が多々ある。 ・コロナ禍が明けた後、地域との連携も少しずつ回復することができている。 ・児童も少人数であるが、職員も少人数である。その中でも、しっかりと一人一人を見ていると感じる。 ・上を見れば限りが無いが、職員は少ない人数を補う努力をして十分に子どもたちの配慮をしている。 ・児童に対して話を聞く意識を高く持ち、できるだけ反映させたいという努力や検討はしている。 ・子どもたちや保護者、地域の方の声を、あくまでも強りよがりの内容にならないように、全体のことを踏まえながら反映していかなければならない。
	9 学校は、「小中一貫教育」の取組内容について、保護者の方や地域の方に理解されるように努めている。	B	【学校】 ・掲示物の定期的な貼り替え、ICTの活用、教材・教具の工夫等、職員が工夫して環境整備に取り組んでいる。 ・予算に限られている中、中教委も含め、環境整備には非常に尽力をしている。 ・地域の方にたくさんお世話になっているお蔭で、安全等について確保されている部分が多々ある。 ・コロナ禍が明けた後、地域との連携も少しずつ回復することができている。 ・児童も少人数であるが、職員も少人数である。その中でも、しっかりと一人一人を見ていると感じる。 ・上を見れば限りが無いが、職員は少ない人数を補う努力をして十分に子どもたちの配慮をしている。 ・児童に対して話を聞く意識を高く持ち、できるだけ反映させたいという努力や検討はしている。 ・子どもたちや保護者、地域の方の声を、あくまでも強りよがりの内容にならないように、全体のことを踏まえながら反映していかなければならない。
	10 学校は、上記1～9の内容を、学校行事・PTA活動・各種便り・ホームページ等で適切に伝えている。	A	【学校】 ・掲示物の定期的な貼り替え、ICTの活用、教材・教具の工夫等、職員が工夫して環境整備に取り組んでいる。 ・予算に限られている中、中教委も含め、環境整備には非常に尽力をしている。 ・地域の方にたくさんお世話になっているお蔭で、安全等について確保されている部分が多々ある。 ・コロナ禍が明けた後、地域との連携も少しずつ回復することができている。 ・児童も少人数であるが、職員も少人数である。その中でも、しっかりと一人一人を見ていると感じる。 ・上を見れば限りが無いが、職員は少ない人数を補う努力をして十分に子どもたちの配慮をしている。 ・児童に対して話を聞く意識を高く持ち、できるだけ反映させたいという努力や検討はしている。 ・子どもたちや保護者、地域の方の声を、あくまでも強りよがりの内容にならないように、全体のことを踏まえながら反映していかなければならない。
学習	11 学習支援の取組み(複数指導やがんばりタイムなど)は、基礎学力の定着に繋がっている。	A	【学習】 【新学習システム・がんばりタイム】 ・複数指導の効果は大きい。指導補助員がいなかったため、学習支援、生活支援としてのT2の役割には助かっている。 ・マンパワーのメリットは明白であり、何とか人員配置を増やす方向にしていきたい。 【タブレットを用いた学習】 ・タブレットによる検索、タイピング練習、プログラミング学習等、どんどん活用の幅は広がっている。 ・ドリル学習に使うだけでも個別で自分のペースに合わせて学習を進められて有効である。 ・バランスの良い使用を模索し、今後更に活用を進めたい。 【体験学習・ふるさと学習】 ・校外へ出かける学習等はかなり実施できている。本物にふれる学習効果はある。 ・伊佐ならではの取組みを今後も進めたい。 ・自然学校や修学旅行も毎年見直し、内容についてはよく考えられていると思う。ただ、自然学校自体が今の児童が持つ力と大きく乖離したもものなっている。 ・様々な条件の中で、実施時期、内容も工夫している。毎回、終了後には「ふり返し」もして、次に活かしていると思う。 ・熱中症対策を十分に考えた行事の進め方をしなければならない。 【そうあんの日】 ・マンネリ化してしまいがちではあるが、子ども自身も自ら進んで考えて動けるようになってきたらさらに充実すると思う。 ・家庭での意識の差を埋めることは難しい。個々の家庭に合った取組み方で進められるようにしたい。 ・放課後の過ごし方に関して学校が口を出さなくてもいいのではないかと感じる。 【家庭への連絡】 ・十分に伝えてくれていると思うが、日々の様子をタイムリーに伝える点には課題がある。 ・普段の連絡をこまめに行う意識を持ち続けたい。
	12 タブレット等を用いた学習は、子どもたちの学習意欲を高め、学習理解を深めることに有効である。	A	【学習】 【新学習システム・がんばりタイム】 ・複数指導の効果は大きい。指導補助員がいなかったため、学習支援、生活支援としてのT2の役割には助かっている。 ・マンパワーのメリットは明白であり、何とか人員配置を増やす方向にしていきたい。 【タブレットを用いた学習】 ・タブレットによる検索、タイピング練習、プログラミング学習等、どんどん活用の幅は広がっている。 ・ドリル学習に使うだけでも個別で自分のペースに合わせて学習を進められて有効である。 ・バランスの良い使用を模索し、今後更に活用を進めたい。 【体験学習・ふるさと学習】 ・校外へ出かける学習等はかなり実施できている。本物にふれる学習効果はある。 ・伊佐ならではの取組みを今後も進めたい。 ・自然学校や修学旅行も毎年見直し、内容についてはよく考えられていると思う。ただ、自然学校自体が今の児童が持つ力と大きく乖離したもものなっている。 ・様々な条件の中で、実施時期、内容も工夫している。毎回、終了後には「ふり返し」もして、次に活かしていると思う。 ・熱中症対策を十分に考えた行事の進め方をしなければならない。 【そうあんの日】 ・マンネリ化してしまいがちではあるが、子ども自身も自ら進んで考えて動けるようになってきたらさらに充実すると思う。 ・家庭での意識の差を埋めることは難しい。個々の家庭に合った取組み方で進められるようにしたい。 ・放課後の過ごし方に関して学校が口を出さなくてもいいのではないかと感じる。 【家庭への連絡】 ・十分に伝えてくれていると思うが、日々の様子をタイムリーに伝える点には課題がある。 ・普段の連絡をこまめに行う意識を持ち続けたい。
	13 “そうあんの日”の取組みは、望ましい家庭生活について考える機会になっている。	B	【学習】 【新学習システム・がんばりタイム】 ・複数指導の効果は大きい。指導補助員がいなかったため、学習支援、生活支援としてのT2の役割には助かっている。 ・マンパワーのメリットは明白であり、何とか人員配置を増やす方向にしていきたい。 【タブレットを用いた学習】 ・タブレットによる検索、タイピング練習、プログラミング学習等、どんどん活用の幅は広がっている。 ・ドリル学習に使うだけでも個別で自分のペースに合わせて学習を進められて有効である。 ・バランスの良い使用を模索し、今後更に活用を進めたい。 【体験学習・ふるさと学習】 ・校外へ出かける学習等はかなり実施できている。本物にふれる学習効果はある。 ・伊佐ならではの取組みを今後も進めたい。 ・自然学校や修学旅行も毎年見直し、内容についてはよく考えられていると思う。ただ、自然学校自体が今の児童が持つ力と大きく乖離したもものなっている。 ・様々な条件の中で、実施時期、内容も工夫している。毎回、終了後には「ふり返し」もして、次に活かしていると思う。 ・熱中症対策を十分に考えた行事の進め方をしなければならない。 【そうあんの日】 ・マンネリ化してしまいがちではあるが、子ども自身も自ら進んで考えて動けるようになってきたらさらに充実すると思う。 ・家庭での意識の差を埋めることは難しい。個々の家庭に合った取組み方で進められるようにしたい。 ・放課後の過ごし方に関して学校が口を出さなくてもいいのではないかと感じる。 【家庭への連絡】 ・十分に伝えてくれていると思うが、日々の様子をタイムリーに伝える点には課題がある。 ・普段の連絡をこまめに行う意識を持ち続けたい。
	14 生活科や総合的な学習の時間を中心に、コウノトリや地域探訪などのふるさと学習に積極的に取り組んでいる。	A	【学習】 【新学習システム・がんばりタイム】 ・複数指導の効果は大きい。指導補助員がいなかったため、学習支援、生活支援としてのT2の役割には助かっている。 ・マンパワーのメリットは明白であり、何とか人員配置を増やす方向にしていきたい。 【タブレットを用いた学習】 ・タブレットによる検索、タイピング練習、プログラミング学習等、どんどん活用の幅は広がっている。 ・ドリル学習に使うだけでも個別で自分のペースに合わせて学習を進められて有効である。 ・バランスの良い使用を模索し、今後更に活用を進めたい。 【体験学習・ふるさと学習】 ・校外へ出かける学習等はかなり実施できている。本物にふれる学習効果はある。 ・伊佐ならではの取組みを今後も進めたい。 ・自然学校や修学旅行も毎年見直し、内容についてはよく考えられていると思う。ただ、自然学校自体が今の児童が持つ力と大きく乖離したもものなっている。 ・様々な条件の中で、実施時期、内容も工夫している。毎回、終了後には「ふり返し」もして、次に活かしていると思う。 ・熱中症対策を十分に考えた行事の進め方をしなければならない。 【そうあんの日】 ・マンネリ化してしまいがちではあるが、子ども自身も自ら進んで考えて動けるようになってきたらさらに充実すると思う。 ・家庭での意識の差を埋めることは難しい。個々の家庭に合った取組み方で進められるようにしたい。 ・放課後の過ごし方に関して学校が口を出さなくてもいいのではないかと感じる。 【家庭への連絡】 ・十分に伝えてくれていると思うが、日々の様子をタイムリーに伝える点には課題がある。 ・普段の連絡をこまめに行う意識を持ち続けたい。
	15 校外学習や、栽培・農業体験、自然学校(氷ノ山登山を含む)、修学旅行などの体験は、子どもたちの成長に結びついている。	A	【学習】 【新学習システム・がんばりタイム】 ・複数指導の効果は大きい。指導補助員がいなかったため、学習支援、生活支援としてのT2の役割には助かっている。 ・マンパワーのメリットは明白であり、何とか人員配置を増やす方向にしていきたい。 【タブレットを用いた学習】 ・タブレットによる検索、タイピング練習、プログラミング学習等、どんどん活用の幅は広がっている。 ・ドリル学習に使うだけでも個別で自分のペースに合わせて学習を進められて有効である。 ・バランスの良い使用を模索し、今後更に活用を進めたい。 【体験学習・ふるさと学習】 ・校外へ出かける学習等はかなり実施できている。本物にふれる学習効果はある。 ・伊佐ならではの取組みを今後も進めたい。 ・自然学校や修学旅行も毎年見直し、内容についてはよく考えられていると思う。ただ、自然学校自体が今の児童が持つ力と大きく乖離したもものなっている。 ・様々な条件の中で、実施時期、内容も工夫している。毎回、終了後には「ふり返し」もして、次に活かしていると思う。 ・熱中症対策を十分に考えた行事の進め方をしなければならない。 【そうあんの日】 ・マンネリ化してしまいがちではあるが、子ども自身も自ら進んで考えて動けるようになってきたらさらに充実すると思う。 ・家庭での意識の差を埋めることは難しい。個々の家庭に合った取組み方で進められるようにしたい。 ・放課後の過ごし方に関して学校が口を出さなくてもいいのではないかと感じる。 【家庭への連絡】 ・十分に伝えてくれていると思うが、日々の様子をタイムリーに伝える点には課題がある。 ・普段の連絡をこまめに行う意識を持ち続けたい。
	16 学校行事は、その実施時期や内容を工夫しながら、適切に実施されている。	A	【学習】 【新学習システム・がんばりタイム】 ・複数指導の効果は大きい。指導補助員がいなかったため、学習支援、生活支援としてのT2の役割には助かっている。 ・マンパワーのメリットは明白であり、何とか人員配置を増やす方向にしていきたい。 【タブレットを用いた学習】 ・タブレットによる検索、タイピング練習、プログラミング学習等、どんどん活用の幅は広がっている。 ・ドリル学習に使うだけでも個別で自分のペースに合わせて学習を進められて有効である。 ・バランスの良い使用を模索し、今後更に活用を進めたい。 【体験学習・ふるさと学習】 ・校外へ出かける学習等はかなり実施できている。本物にふれる学習効果はある。 ・伊佐ならではの取組みを今後も進めたい。 ・自然学校や修学旅行も毎年見直し、内容についてはよく考えられていると思う。ただ、自然学校自体が今の児童が持つ力と大きく乖離したもものなっている。 ・様々な条件の中で、実施時期、内容も工夫している。毎回、終了後には「ふり返し」もして、次に活かしていると思う。 ・熱中症対策を十分に考えた行事の進め方をしなければならない。 【そうあんの日】 ・マンネリ化してしまいがちではあるが、子ども自身も自ら進んで考えて動けるようになってきたらさらに充実すると思う。 ・家庭での意識の差を埋めることは難しい。個々の家庭に合った取組み方で進められるようにしたい。 ・放課後の過ごし方に関して学校が口を出さなくてもいいのではないかと感じる。 【家庭への連絡】 ・十分に伝えてくれていると思うが、日々の様子をタイムリーに伝える点には課題がある。 ・普段の連絡をこまめに行う意識を持ち続けたい。
	17 子どもたちの様子は、懇談や通知表で適切に伝えられている。	A	【学習】 【新学習システム・がんばりタイム】 ・複数指導の効果は大きい。指導補助員がいなかったため、学習支援、生活支援としてのT2の役割には助かっている。 ・マンパワーのメリットは明白であり、何とか人員配置を増やす方向にしていきたい。 【タブレットを用いた学習】 ・タブレットによる検索、タイピング練習、プログラミング学習等、どんどん活用の幅は広がっている。 ・ドリル学習に使うだけでも個別で自分のペースに合わせて学習を進められて有効である。 ・バランスの良い使用を模索し、今後更に活用を進めたい。 【体験学習・ふるさと学習】 ・校外へ出かける学習等はかなり実施できている。本物にふれる学習効果はある。 ・伊佐ならではの取組みを今後も進めたい。 ・自然学校や修学旅行も毎年見直し、内容についてはよく考えられていると思う。ただ、自然学校自体が今の児童が持つ力と大きく乖離したもものなっている。 ・様々な条件の中で、実施時期、内容も工夫している。毎回、終了後には「ふり返し」もして、次に活かしていると思う。 ・熱中症対策を十分に考えた行事の進め方をしなければならない。 【そうあんの日】 ・マンネリ化してしまいがちではあるが、子ども自身も自ら進んで考えて動けるようになってきたらさらに充実すると思う。 ・家庭での意識の差を埋めることは難しい。個々の家庭に合った取組み方で進められるようにしたい。 ・放課後の過ごし方に関して学校が口を出さなくてもいいのではないかと感じる。 【家庭への連絡】 ・十分に伝えてくれていると思うが、日々の様子をタイムリーに伝える点には課題がある。 ・普段の連絡をこまめに行う意識を持ち続けたい。
生活	18 学校は、いじめや生活指導上の問題などの早期発見に努めている。	B	【生活】 【生活指導】 ・いじめや生活指導上の問題などの早期発見にはしっかり努めていると思うが、保護者の思いとの乖離を埋めていかなければならない。 ・体制はよい。職員の感覚をさらに研ぎ澄ましていきたい。 ・学級指導、集会時等をはじめ、日々の下校集会の際の番長からの話の効果も大きいと感じている。 ・保護者の意識(親の意識)の更なる向上も図りたい。 ・学年によっては、都度都度児童との面談を設定している。全ての学年での実施を進め、できる限り児童のそばにいたいことを今後も心がけたい。 【保護者・家庭との連携】 ・事あるごとにこまめに連絡は取っているが、連携が取れたかどうかは見直す必要がある。 ・担任によって差が出ないように留意する。 【健康・安全】 ・季節に応じた指導、行事が設定され、児童会ともタイアップした企画もあり、健康への意識付けは継続されている。 ・養護教諭を中心に、迅速で細やかな対応ができてきている。
	19 学校は、生活のきまりやSNSルールに基づいて、日頃から生活指導を行っている。	A	【生活】 【生活指導】 ・いじめや生活指導上の問題などの早期発見にはしっかり努めていると思うが、保護者の思いとの乖離を埋めていかなければならない。 ・体制はよい。職員の感覚をさらに研ぎ澄ましていきたい。 ・学級指導、集会時等をはじめ、日々の下校集会の際の番長からの話の効果も大きいと感じている。 ・保護者の意識(親の意識)の更なる向上も図りたい。 ・学年によっては、都度都度児童との面談を設定している。全ての学年での実施を進め、できる限り児童のそばにいたいことを今後も心がけたい。 【保護者・家庭との連携】 ・事あるごとにこまめに連絡は取っているが、連携が取れたかどうかは見直す必要がある。 ・担任によって差が出ないように留意する。 【健康・安全】 ・季節に応じた指導、行事が設定され、児童会ともタイアップした企画もあり、健康への意識付けは継続されている。 ・養護教諭を中心に、迅速で細やかな対応ができてきている。
	20 学校は、子どもたちと個別に話を聞く機会を持ち、適切に対応するように努めている。	A	【生活】 【生活指導】 ・いじめや生活指導上の問題などの早期発見にはしっかり努めていると思うが、保護者の思いとの乖離を埋めていかなければならない。 ・体制はよい。職員の感覚をさらに研ぎ澄ましていきたい。 ・学級指導、集会時等をはじめ、日々の下校集会の際の番長からの話の効果も大きいと感じている。 ・保護者の意識(親の意識)の更なる向上も図りたい。 ・学年によっては、都度都度児童との面談を設定している。全ての学年での実施を進め、できる限り児童のそばにいたいことを今後も心がけたい。 【保護者・家庭との連携】 ・事あるごとにこまめに連絡は取っているが、連携が取れたかどうかは見直す必要がある。 ・担任によって差が出ないように留意する。 【健康・安全】 ・季節に応じた指導、行事が設定され、児童会ともタイアップした企画もあり、健康への意識付けは継続されている。 ・養護教諭を中心に、迅速で細やかな対応ができてきている。
	21 学校は、家庭と十分に連絡を取り、連携が取れた指導を行うように努めている。	A	【生活】 【生活指導】 ・いじめや生活指導上の問題などの早期発見にはしっかり努めていると思うが、保護者の思いとの乖離を埋めていかなければならない。 ・体制はよい。職員の感覚をさらに研ぎ澄ましていきたい。 ・学級指導、集会時等をはじめ、日々の下校集会の際の番長からの話の効果も大きいと感じている。 ・保護者の意識(親の意識)の更なる向上も図りたい。 ・学年によっては、都度都度児童との面談を設定している。全ての学年での実施を進め、できる限り児童のそばにいたいことを今後も心がけたい。 【保護者・家庭との連携】 ・事あるごとにこまめに連絡は取っているが、連携が取れたかどうかは見直す必要がある。 ・担任によって差が出ないように留意する。 【健康・安全】 ・季節に応じた指導、行事が設定され、児童会ともタイアップした企画もあり、健康への意識付けは継続されている。 ・養護教諭を中心に、迅速で細やかな対応ができてきている。
	22 学校は、健康で安全な学校生活が送れるように、適宜指導を行っている。	A	【生活】 【生活指導】 ・いじめや生活指導上の問題などの早期発見にはしっかり努めていると思うが、保護者の思いとの乖離を埋めていかなければならない。 ・体制はよい。職員の感覚をさらに研ぎ澄ましていきたい。 ・学級指導、集会時等をはじめ、日々の下校集会の際の番長からの話の効果も大きいと感じている。 ・保護者の意識(親の意識)の更なる向上も図りたい。 ・学年によっては、都度都度児童との面談を設定している。全ての学年での実施を進め、できる限り児童のそばにいたいことを今後も心がけたい。 【保護者・家庭との連携】 ・事あるごとにこまめに連絡は取っているが、連携が取れたかどうかは見直す必要がある。 ・担任によって差が出ないように留意する。 【健康・安全】 ・季節に応じた指導、行事が設定され、児童会ともタイアップした企画もあり、健康への意識付けは継続されている。 ・養護教諭を中心に、迅速で細やかな対応ができてきている。
PTA	23 学校は、学校行事やPTA活動などを通して、保護者の方や地域の方との相互理解が深まるように努めている。	A	【PTA】 【相互理解】 ・コロナ禍の影響もあってじっくり顔を合わせて取り組む行事、活動等ができなかったため、なかなか顔と名前が覚えられない。 ・コロナ禍が明けた後、保護者や地域と共に進める行事が復活しつつある。 【PTA活動】 ・行事、会計処理等、活躍いただいていると思う。今後会員数の減少による役員決め、割り等には何らかの配慮が必要である。 ・三役さんや総務委員さん、代議員さんのご尽力で、良い運営ができています。 ・会長さんと役員さんは1年のみで、例年通りに進めるのが一般的だが、学校として省けるものを提案していくのも必要である。
	24 PTA活動は、適切に運営されている。	A	【PTA】 【相互理解】 ・コロナ禍の影響もあってじっくり顔を合わせて取り組む行事、活動等ができなかったため、なかなか顔と名前が覚えられない。 ・コロナ禍が明けた後、保護者や地域と共に進める行事が復活しつつある。 【PTA活動】 ・行事、会計処理等、活躍いただいていると思う。今後会員数の減少による役員決め、割り等には何らかの配慮が必要である。 ・三役さんや総務委員さん、代議員さんのご尽力で、良い運営ができています。 ・会長さんと役員さんは1年のみで、例年通りに進めるのが一般的だが、学校として省けるものを提案していくのも必要である。
教職員のみ	25 学校は、教職員の勤務時間適正化に努めている。	A	【教職員のみのみ】 【勤務時間適正化】 ・職員の意識の高さにより、勤務時間の適正化が図られている。 ・業務の削減や勤務時間の振り振り等、柔軟な対応を行うことで実績が上がっている。 【NO体罰】 ・職員の意識の高さにより、体罰ゼロを果たしている。・顔ごなしに指導することなく、児童に寄り添った指導ができています。 ・暴言、威嚇等がなく、それぞれが立場を弁えた教職員と児童との関係性がとても温かく感じられる。
	26 学校は、子どもの人権を尊重し、体罰に頼らない心の通う生活指導に努めている。	A	【教職員のみのみ】 【勤務時間適正化】 ・職員の意識の高さにより、勤務時間の適正化が図られている。 ・業務の削減や勤務時間の振り振り等、柔軟な対応を行うことで実績が上がっている。 【NO体罰】 ・職員の意識の高さにより、体罰ゼロを果たしている。・顔ごなしに指導することなく、児童に寄り添った指導ができています。 ・暴言、威嚇等がなく、それぞれが立場を弁えた教職員と児童との関係性がとても温かく感じられる。

4 総合的な学校関係者評価

各項目において、概ね妥当な評価であった。コロナ禍が明け、様々な行事や活動が復活していく中で児童は様々な体験を通して仲間と共感し協力して課題を解決する力を身に付けながら、積極的に学校生活を送っている様子である。今後も常に一人一人の児童に寄り添い、様子を細かく見守ると同時に、特に児童の洞察力、判断力を育ててほしい。家庭においては児童が自ら困難を乗り越えることができる対応力を高められるよう、親子でコミュニケーションを取りながら様々な経験、体験をさせてほしい。学校、家庭、地域の連携をより強固なものにするために、交流の機会を増やしていきたい。

5 評価項目ごとの学校関係者評価

自己評価の適切さ
○概ね妥当である。
○挨拶をするしないは家庭や地域の責任。コロナ禍で行事がなくなり、大人と子どもが出会ったり接触したりする機会が減ることで、挨拶をする場面も少なくなった。大人の方から積極的に挨拶や声かけをしていく。
○昔も子ども同士で挨拶することはなかった。今でも強制してさせるものではない。手を振ったり、頭を下げたりするだけでも、意思疎通ができていれば十分。
○そもそも地域で人を見ないし、子どもとも会わない。学校で挨拶ができていればよい。
○むしろ高校生ぐらいの方が通学途中でしっかり挨拶してくれる。成長過程において、どんなタイミングでどんな挨拶をしたら良いのかが身に付けられる様な家庭や地域でありたい。
○「いただきます」「ごちそうさま」等の挨拶を皆でするような環境をすることで、挨拶をしやすい、したくなる雰囲気を広める。
○「小中一貫教育」は、広報等で工夫して伝えられているが、実際に関係していないと内容が理解しにくい。活動の様子を参観できたり、参加したりする機会があれば内容の共有がしやすくなるのではないかな。
○妥当である。
○「そうあんの日」は、グッドメディア(メディアを上手に活用する)の取組みとしてタブレット等の使用を控える良い機会となつていて、今後も続けていきたい。
○「そうあんの日」は、家族の一員としての役割を再認識する日でもあるが、特に平日に日にちが固定されると、習い事等で忙しかったり唯一メディアと繋がることができる日が作れなくなったり、保護者が多忙な中お手伝いをお膳立てすることが難しかったりで負担が大きい。「そうあんの日」を家庭毎に自由に設定できるようにしたら取組みがさらにしやすくなるのではないかな。
○コウノトリの学習や地域探訪は非常に有意義なことだが、学校職員の負担が大きい。区長さん等に依頼して、地域の方に活動の際の指導や補助等をお願いできる様な体制を作りたい。
○今は本当に様々な校外学習が行われている。有難いことである。
○概ね妥当である。
○いじめがない訳ではないが、学校は迅速且つ細かく適切に対応している。
○人数が少ないが故に、一度関係がこじれると関係修復が難しい。
○学校では人目やその後の対応の煩わしさ、周囲へ迷惑を掛ける等から不満が出にくく、家庭に帰ってからその不満を出すことで対応が後手に回ってしまうことがある。学校でもその場で不満を出すことができる様な雰囲気作り環境作りをさらに進め、すべての児童の受け皿を確保したい。
○児童ポルノと金銭の貸し借りさえなければ、児童へのある程度の負荷は成長過程で必要なこと。子どもと親との結びつき、学校との信頼関係を高めることで十分な情報交換を行い、子どもたちが楽しく学校へ行けるように力を合わせたい。
○妥当である。
○コロナ禍が治まったとは言え、行事への制約もまだまだ多い中、一生懸命取り組むことができています。もっと評価が高くてよい。
○広報誌等の電子データ化(紙ベースと併用)も考えて行きたい。
○妥当である。
○朝早くから学校が開けてあり、心強い。
○生活指導事案は事細かに保護者に報告されていてありがたい。

—

————

————

————

————

—